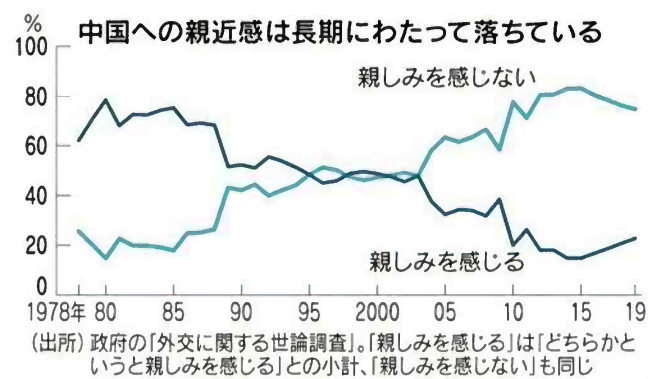
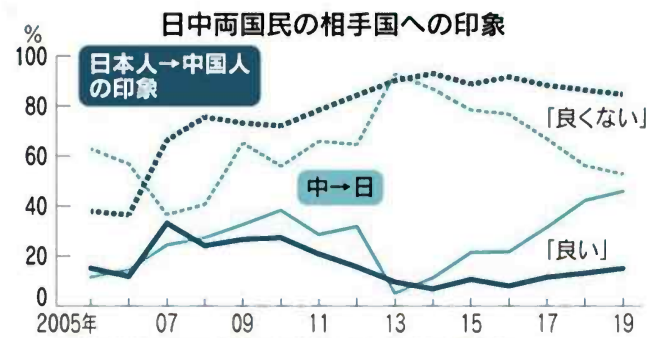




さらに親近感が下がった。「親しみを感ずらない」が「感じる」を常に上回る時期だ。

04年は中国で開催された日本対中国のサッカー・アジアカップ決勝戦が話題になった。日本代表が激しいブーイングを浴びせられ、試合終了後には日本公使の車が襲われたり、日の丸が焼かれたりした。翌05年は中国各地で反日暴動が頻発した。10年には尖閣諸島沖で中国の漁船が海上保安庁の巡視船と衝突し、12年には日本が尖閣諸島を国有化する中国が猛反発した。

一連の出来事で日本人の対中感情は悪化を続けた。10年以降は「親しみを感ずらない」が常に7割を超えている。

■相互理解促進へ対話 政治レベルでは関係改善が際立つ。14年の首脳会談後、17年の国交正常化45年や18年の平和友好条約締結40年といった節目で対話を進めてきた。経済の相互依存も深化し、日本にとり中国は最大、中国にとっても日本は2番目の貿易相手国だ。政治・経済の関係に比べると日本の国民感情は冷ややかと言える。

「中国のハードな部分を解消しないと、日本国民全体が歓迎しようという雰囲気にならない」。春の習氏の来日を前に、日本外務省は中国側に伝えている。尖閣周辺では中国公船が領海侵入を繰り返すし、東シナ海ではガス田の一方的な開発が続く。日本政府によると、15年以降、中国では少なくとも15人の日本人がスパイなどの容疑で拘束された。こうした問題に手をつけなければ、日本人の対中感情は良くならない、と説明する。

日中は19年11月に東京で初めてハイレベル人的・文化交流対話を開いた。日本は茂木敏充外相や萩生田光一文部科学相、中国は王毅(ワン・イ)外相や陳宝生教育相らが

記者の目

関係良しあし、中国が左右

「日中関係が良いか悪いかは結局、中国が決める」。日本外務省の職員からこんな言葉を聞いたことがある。日中対立の原因となった沖縄県尖閣諸島の問題では、日本が大きな譲歩もしていないのに、2014年に安倍晋三首相の訪中が実現し、関係が改善に向かった。中国指導部に関係を好転させる意向があったからだ。外交は軍事や経済を含む国力を反映する。大国ほど外交の主導権を持ちやすい。

10年前後には米中二大国で国際秩序を担うべきだという「G2(Group of Two)」論もあった。米中が親密なら日本が口を挟む余地は乏しいが、いま米中は貿易摩擦などで対立する。中国にとって日本の外交上の価値は上がっているはずだ。日本政府は好機を生かし、うまく中国との関係を築いてほしい。(地曳航也)

2020年は日中関係にとって重要な節目の年になる。春に習近平(シー・ジンピン)国家主席が国賓として来日し、安倍晋三首相と新たな政治文書を交わすことも検討する。最近では中国から日本に来る観光客が増え、日本への国民感情も改善している。ところが東シナ海問題などを背景に、日本側の盛り上がりはいまひとつだ。日中関係をさらに深化させるには、国民レベルの相互理解が必要になる。

■中国首脳も気がかり

安倍首相が習氏や李克強(リー・クオチャン)首相と会談する際にしばしば「アンバランスだ」との指摘を受ける話題がある。双方への訪問者数の推移だ。

日本への中国人の訪問者数は14年から増え続け、18年は14年の3・5倍だった。14年は安倍首相が訪中して習氏と会談した。日本が12年に沖縄県尖閣諸島を国有化した後、日中関係は「戦後最悪」と評されたが、14年に首脳会談が実現し最悪期を脱したといわれる。にもかかわらず、中国を訪ねる日本人は増えていない。

訪中日本人なぜ増えない？

本の印象を「良い」と答えた中国人は調査開始以来、最高となる45・9%に上った。13年の5・2%を底に14年から急上昇していた。対照的に中国の印象を「良い」と答えた日本人は15%にすぎない。最低だった14年の6・8%より上がったものの伸びは弱い。

■冷めた対中感情

より長期的な調査をみると、日本人の中国への感情は過去40年で大きく3つの時期に分類できることが分かる。内閣府が毎年発表する「外交に関する世論調査」は日本人の中国への親近感を1978年から調べてきた。

対中感情改善、道遠く

参加し、国民レベルでどう相互理解を進めるか協議した。協議の結果、東京五輪を開幕20年を「日中文化・スポーツ交流推進年」にする合意した。安倍首相は直後の昨年12月、アيدドルグループの「嵐」を交流推進年の親善大使に起用すると習氏に伝えた。嵐は中国でも人気があり、

関係改善の象徴として広報活動に携わってもらう方針だ。米国と中国とのハイテク覇権争いが進むと、日本は同盟国の米国側への旗幟(きし)を鮮明にせざるを得ない。中国との関係は政治レベルでも再び悪化する懸念は残る。中国政治に詳しい慶応大の加茂具樹教授は「中国は関係が友好だから首脳が会うという立場だが、日本は問題があるから会うという姿勢を続けることが重要だ」と指摘する。



中国人観光客でにぎわう静岡空港の国際線チェックインカウンター
(2019年11月、静岡県牧之原市)

訪日中国人は増えたが、訪中日本人が増えない

